

## 事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	友好都市対馬市スタディーツアー (町制70周年記念事業)	担当課	教育課
事業費	29年度実績額	30年度実績額	R1年度予算額
	0千円	2,194千円	0千円
事業概要	町制70周年記念事業として、友好都市である対馬市へ町内の児童を派遣し、交流を図ると共に、多様な文化や自然について理解する。		
(1) 対象	小学校5年生～6年生で、各校代表1名		
(2) 目的	友好都市対馬市へ本町の児童を派遣し、異なる生活環境の中で自然と文化に直に触れると共に、様々な体験活動を通して多様な価値観について理解する機会を作ることを目的とする。		
(3) 事業内容	町内11校の小学校より各校1名の代表者を選出し、友好都市である対馬市へ派遣する。		
(4) 成果目標	11名の児童を対馬市への派遣		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	<p><b>【成果】</b> 町内の小学校11校から10名の児童を派遣した。 国内でヤマネコが生息する地域同士の交流は、子供達にとっても大きな刺激となり、改めてわが町竹富町を見つめなおす良い機会になっていた。 スタディーツアーから帰った児童は、出発時と比べ、表情や態度も変わり、短い期間であったが大きく成長したように感じた。</p>		
	<p><b>【課題等】</b> 町内の1校において、児童の都合が合わずに参加することができなかった。 旅行中において、大きな怪我や病気もなく皆が元気に参加することができた。</p>		
A			
外部評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町制70周年記念事業として友好都市対馬市への派遣した成果は、内部評価(成果)から良い取り組みであった事を評価する。</li> <li>・5年あるいは10年ごとの節目にあたる周年事業として今後は、検討を期待します。</li> </ul>		
A			

## 事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	鳩間島留学支援多目的施設つばさ寮運営	担当課	教育課
事業費	29年度実績額	30年度実績額	R1年度予算額
	0千円	9,899千円	9,798千円
事業概要	鳩間島留学支援多目的施設つばさ寮の運営を行う。		
(1) 対象	鳩間島留学支援多目的施設つばさ寮へ入寮する児童生徒(小4～中3)		
(2) 目的	鳩間島つばさ寮へ入寮し、鳩間小中学校へ留学する児童生徒を鳩間島つばさ寮へ受け入れをし、集団生活の中で心身ともに健康な児童生徒の育成を図ると共に、学校や地域の活性化を図る。		
(3) 事業内容	鳩間小中学校へ留学を希望する児童生徒のつばさ寮への受け入れをし、留学生を支援する。		
(4) 成果目標	留学生の受け入れ(定員8名)		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	<b>【成果】</b> 平成30年度からスタートした事業の為、周知が難しい面もあったが、3名の留学生を受け入れることができた。 自然豊かな鳩間島で育まれる人間力や、親元を離れ生活することで育まれる自立力と自律力、仲間と野共同生活で育まれる自主性など、留学生は1年間で大きく成長し、つばさ寮を巣立っていた。		
	<b>【課題等】</b> 3名中1名の児童が、年度途中で退寮となってしまった。小学生ということもあり、ホームシックなど、親元を離れて生活することが予想以上に負担となっていたようであった。 留学を希望してくる児童生徒のサポートを、つばさ寮、教育委員会、学校、地域で行う必要がある。 今後も寮監の研修や、地域との連携などを強化し、事業に取り組んでいく。		
A			
外部評価	・つばさ寮の目的である、学校や地域の活性化を図るためには、留学生をきらさない事である。そのためには、常に対外への受け入れをアピールすることが大切である。 ・問題を抱えた子のみでなく、自然豊かな体験を目的とする子、自立体験を希望する子等々の募集も率先して行う事を推奨します。		
	A		

## 事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	幼稚園預かり保育	担当課	教育課
事業費	29年度実績額	30年度実績額	R1年度予算額
	8,541 千円	7,534 千円	8,545 千円
事業概要	幼稚園教育時間終了後、幼稚園管理下において希望する在園児を預かり保育することにより、幼児の心身の健全な発達を図るとともに保護者の子育て支援を図る。		
(1)対象	幼稚園教育時間終了後、家庭内保育が困難な幼児(4歳、5歳)		
(2)目的	幼児の心身の健全な発達及び保護者の子育て支援		
(3)事業内容	幼稚園教育時間終了後から午後5時までとし、また、夏季休業時は、午前8時30分から午後5時までの預かりを実施。		
(4)成果目標	保護者のニーズにあった保育を推進する。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	<b>【成果】</b> ① 共働きで、自営業を行っている家庭が多く、繁忙期の申し込みが増えており預かり保育の需要が増加傾向にある。		
	B	<b>【課題等】</b> ① 預かり保育希望者の増加に伴い、保育者の人材が必要となるが人材確保が厳しい。 ② 預かり保育申請を提出したら、許可という流れについて、また、人数を超えた際の決定方法について見直しが必要。 ③ 夏季休業中には、1日を通して預かり保育を行うため、通常より保育料を引き上げる等の見直しが必要。	
外部評価	・国の政策や社会の流れ等々から、預かり保育の完全実施、充実が望まれている。他の町の実践例等を参考に本町での完全実施を検討願います。		
B			

## 事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	特別支援教育支援員配置事業	担当課	教育課
事業費	29年度実績額	30年度実績額	R1年度予算額
	6,441 千円	5,136 千円	6,554 千円
事業概要	町内幼稚園・小学校・中学校に特別支援教育に係る支援員を配置する。 配置校は、小浜中、黒島小、上原小、西表小、うえはら幼、はてるま幼に配置する。		
(1)対象	支援員の支援を要する町内の児童・生徒・園児		
(2)目的	発達障害等により学習や生活面に特別な支援を必要とする園児・児童・生徒に対して特別支援教育支援員を配置し、児童生徒に応じた適切な支援を行う。		
(3)事業内容	①各園、小中学校からの支援員要請を受け、概ね1日5時間、週25時間の間で、学校長の指導の下、担当教員と協力し、対象園児児童生徒に学習支援を中心に学校生活上の介助等、適宜に支援を行う。 ②特別支援教育支援員研修会の実施		
(4)成果目標	各校の幼児児童生徒の実態や教員のニーズに応じた配慮や支援の工夫による幼児児童生徒の学ぶ意欲や社会性の向上		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価		
区分	評 価 の 説 明 【成果・課題等】		
内部評価	<b>【成果】</b> ① 支援員の配置により、支援が必要な園児・児童・生徒の適切な支援が行われ、落ち着いて学習に向かうことにつながっている。また、支援員配置により、担任の負担が軽減され、安定した学級経営が図られた。 ② 幼稚園・小中学校における特別支援教育に関する教職員の意識の向上にも繋がっており、子ども一人一人の教育的ニーズにあった適切な教育的支援を行うインクルーシブ教育の理解と実践に繋がっている		
	B	<b>【課題等】</b> ① 各島での特別支援教育支援員の確保	
外部評価	・インクルーシブ教育が推進され発達障がいや学習不振など、様々な障がいを持つ子への必要な支援体制が求められ、教育環境整備を含め支援員の確保が求められている。 ・支援員は、教職免許等々の資格は問はれないが、児童理解や専門職員の指導助言、研修会など支援体制の構築が望まれる。		
	B		

## 事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	外国語指導助手(ALT)の配置	担当課	教育課
事業費	29年度実績額	30年度実績額	R1年度予算額
	13,674 千円	13,991 千円	16,038 千円
事業概要	小中学校にALTを配置することにより、生きた外国語や外国文化・生活に触れる機会を提供し、外国語によるコミュニケーション能力の向上と国際感覚の養成を図ることを推進する。		
(1) 対象	竹富町内の幼稚園、小学校、中学校の幼児、児童、生徒		
(2) 目的	中学校の英語教育と国際理解教育の充実・推進を図るとともに、小学校での英語活動、国際理解教育の充実に資する。		
(3) 事業内容	1. 中学校における英語科授業の補助 2. 小学校及び幼稚園における外国語活動等の補助 3. 英語教材作成の補助及び英語能力関係事業などへの協力 4. 幼・小・中学校への特別活動及び課外活動への協力		
(4) 成果目標	①児童生徒に英語で意思の伝達ができる充足感を体験させる。 ②児童・生徒の英語学習に対する動機付けとする。 ③英語を使う能力を向上させるとともに、コミュニケーション能力を身につけさせる。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	<b>【成果】</b> ALTの指導法を統一するため、派遣担当校固定化した。年度末アンケートからは「知っている単語や表現をもとにALTが話している内容を理解できる子もいる」とコミュニケーションの向上が伺える記述が見られた。また、外国語への興味関心が高まったかの問いについては、各年代「高まった、やや高まった」の回答が100%だった。		
	<b>【課題等】</b> ALT3名のうち2名はJETプログラムからの派遣のため、オリエンテーション等研修があるが、JETプログラムではない1名は研修等が今はない。今後どのように指導力等向上の研修を行うかが課題である。		
A			
外部評価	・内部評価の成果にもあるようにALT派遣担当固定化は、信頼関係が深まり英語力アップにつながり、高く評価できます。		
	・学校生活の中や授業で生きた英語に触れさせる事が、生きた英語力につながります。現在のALTから1人でも多く増やして欲しい。		
A			

## 事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	学校給食担当者研修会	担当課	教育課
事業費	29 年度実績額	30 年度実績額	R1 年度予算額
	179 千円	181 千円	309 千円
事業概要	食事は健康の保持・増進、疾病予防の基本であり、食事づくりに携わる者の役割は大きい。衛生管理対策の徹底等、調理員の業務の再認識及び再確認をし、より良い給食業務の推進を図る。		
(1) 対象	町内学校給食調理従事者等		
(2) 目的	給食業務に携わる職員等を対象に衛生管理について研修会を行い、調理員間の交流及び情報共有を図る。		
(3) 事業内容	学校の夏期休業期間を利用し、沖縄県環境科学センターより講師を招き、衛生管理等についての研修会を行う。		
(4) 成果目標	調理施設における衛生管理・食中毒対策について、研修会を通して再確認、再認識をし、安心安全な給食の提供を図る。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	<b>【成果】</b> 例年、石垣にて一堂に会し「衛生管理について」の研修会を開催している。本町では単独調理場、共同調理場が数箇所あり、各調理員等の交流を行うことが難しいが、この研修会を通し職員同士の親睦も深まり、それぞれの問題解決につながった。		
	A	<b>【課題等】</b> 町内での集団食中毒発生を受け、給食調理従事者1人1人の資質向上や技術向上を図る上でも研修の場、情報共有の場を増やす必要があると考え、毎年新学期の給食開始前にも研修会の実施を検討しているが、日程調整が厳しく、多くの給食調理従事者等の参加を見込んでの開催となるとやはり夏休み等の長期休業中でないと開催が厳しい部分もある。	
外部評価	・集団食中毒発生の体験を肝に銘じ、「衛生管理」について研修会の開催は良い。できることなら、年度初めにも確実に行えるよう検討をお願いしたい。 ・近年、食アレルギー体質の子も増えています。保護者、担任、養護教諭との連携を密にし、対応、対策や研修会を検討して下さい。		
	A		

## 事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	竹富町児童・生徒の心と体を育む支援事業(沖縄振興特別推進交付金)	担当課	総務課
事業費	29 年度実績額	30 年度実績額	R1 年度予算額
	5,044 千円	5,628 千円	5,950 千円
事業概要	竹富町内の児童・生徒が、町外へスポーツ大会や各種コンクール等の受賞者として派遣される際の、派遣費用を助成する。		
(1) 対 象	町内小学校、中学校の児童生徒		
(2) 目 的	児童生徒のスポーツ等の各種大会等への派遣費を助成し、保護者の負担軽減や各種大会等での貴重な体験経験を活かした人材育成。沖縄本島等と離島の格差是正を図る。		
(3) 事業内容	竹富町内の児童生徒が、町外へ選手や各種コンクール等の受賞者として派遣される場合、船賃・航空運賃を派遣補助規程に基づき補助する。		
(4) 成果目標	本事業により、派遣費に係る保護者の負担軽減、児童生徒の多くが各種大会に参加可能となる。これにより、文化・スポーツ活動をとoshした心と体の健やかな育成を図る。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	<b>【成果】</b> 本事業については、周知の徹底を図る為、学校や全児童生徒保護者あてにも数回にわたり事業内容についてのお知らせを配布した。それにより、大会・コンクール等への積極的な参加も増え、好成績を残すなどの活躍が年々増えてきた。		
	<b>【課題等】</b> 学校の他、各種団体・個人への補助をおこなっているが、年々希望者が増加傾向にある為、対象となる大会や対象経費となる補助額の見直しが必要だと考える。		
A			
外部評価	・児童生徒の活躍は、教育の大きな成果の表れである。教育行政で、派遣に関わる予算を援助する事は、人材育成への先行投資として素晴らしい。高く評価できる。 ・今後も、財源確保に向けなお一層の努力を期待する。		
A			

## 事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	離島高校生修学支援事業 (離島高校寮生修学援助奨励事業)	担当課	総務課
事業費	29年度実績額		30年度実績額
	(修学支援)	13,306 千円	(修学支援)
	(寮生)	9,059 千円	(寮生)
	(合計)	22,365 千円	(合計)
	13,557 千円	(修学支援)	13,600 千円
	6,595 千円	(寮生)	10,640 千円
	20,152 千円	(合計)	24,240 千円
事業概要	高等学校教育の円滑な修学にあたり、通学に要する交通費、及び居住費を助成する。		
(1) 対象	保護者が本町に住所を有し且つ在住しており、その対象者が町立中学校を卒業し高等学校に修学している者		
(2) 目的	修学支援費として補助し、保護者の経済的負担の軽減、教育の機会均等と地域社会に有為な人材を図るため、通学費等の一部を交付する。		
(3) 事業内容	○修学支援： 通学に要する経費、及び居住費(アパート、下宿、寮費等) 上限額24万円を補助。(補助対象事業： 国庫1/2、県費1/4、町1/4(起債)) ○寮費： 修学支援費の上限24万円に満たない差額分を、寮費の食費分で補い補助する。		
(4) 成果目標	保護者の経済的負担を軽減し、教育の機会均等と地域社会に有為な人材を育成を図る。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	【成果】 年間3回の申請時期を設け24万円(上限)を補助することで、保護者の経済的負担の軽減と高等学校教育の機会均等が図られた。また、上限に満たない差額分については、離島高校寮生修学援助奨励金交付事業で寮費に係る食費を補助し上限に満たすことで上限額の補助を受けている。		
	A	【課題等】 ・対象となる生徒がいるもの関わらず申請しないことが残念に感じる。周知の方法を再度検討する必要がある。	
外部評価	・成果目標をおおむね達成できていると考える。 ・課題解決の為、周知徹底を学校と連携して頑張って下さい。		
	A		



## 事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	ふるさと応援奨学金	担当課	総務課
事業費	29 年度実績額	30 年度実績額	
	0 千円	1,800 千円	
R1 年度予算額	3,600 千円		
事業概要	将来、大学等を卒業したのち竹富町内及び竹富町役場において、専門的資格を必要とする職業(専門職員)を目指す方の修学に必要な資金を支給する。		
(1) 対象	竹富町に1年以上住所を有する者の子、または扶養にある者。		
(2) 目的	将来、大学等を卒業したのち竹富町内及び竹富町役場において、専門的資格を必要とする職業(専門職員)を目指す方の修学に必要な資金を支給する。		
(3) 事業内容	奨学金を給付する期間は、正規の終業期間とし、月額50,000円とする。 就職する期間については、最低、正規の修業期間の2倍の期間とする。		
(4) 成果目標	専門的資格を必要とする職業(専門職員)を目指す方の修学に必要な資金を支給することで、その人材育成を図る。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※合計点数により評価		
区分	評価の説明【成果・課題等】		
内部評価	<b>【成果】</b> 平成30年度は3名(50,000円×12ヶ月=600,000円×3名=1,800,000円)の対象者へ支給決定している。		
	<b>【課題等】</b> 支給要項の見直しを含め、周知方法を改める必要があり、次年度以降に対応したい。		
A			
外部評価	・人材育成、人材確保を考えると素晴らしい事業である。30年度3名の応募者への支給は、町民への周知がしっかりと行われている。 ・事業目的からそれること無く、今後の周知徹底をお願いしたい。		
A			

## 事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	放課後子ども教室委託事業	担当課	社会文化課
事業費	29年度実績額	30年度実績額	R1年度予算額
	1,130 千円	901 千円	1,150 千円
事業概要	放課後等に学校の施設(余裕教室・体育館等)を利用して、子どもたちが安全かつ安心して活動できる拠点を設け、地域住民の参画を得て、学習活動や様々な体験・交流活動を通して地域社会の中で、子どもたちが心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。		
(1)対象	教室を委託設置した校区内の小中学生を対象		
(2)目的	放課後の子どもたちの、安全で健やかな活動場所の確保を図る。		
(3)事業内容	<p>【平成30年度実施団体名】</p> <p>①黒島小中学校(黒潮っ子放課後子ども教室)</p> <p>②古見小学校(古見っ子放課後子ども教室)</p> <p>③竹富小中学校(こぼし放課後子ども教室)</p> <p>④小浜小中学校(まいふなっ子放課後子ども教室)</p> <p>※国庫補助=4教室</p>		
(4)成果目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の方々の協力を得て、学習活動、文化、スポーツ活動に取り組むことにより、子どもたちが健やかに育まれる環境づくりを推進する。</li> <li>・ 学校・家庭・地域による共同の取組により、「地域の子どもは地域で育てる」との環境及び意識の向上を図る。</li> </ul>		
【点検評価】	<p>評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価</p> <p>A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価</p>		
区分	評価の説明 【成果・課題等】		
内部評価	<p>【成果】</p> <p>① 子どもたちが放課後を安全で有意義に過ごせるように学校・地域が協力し、教科の復習、予習、伝統芸能の習得、体験活動、スポーツ等を行っており、ボランティアの方々や地域の住民が講師として参加することにより、地域との連携及びコミュニケーションが図られている。</p> <p>② 平成30年度は、4校(黒島小中学校・古見小学校・竹富小中学校・小浜小中学校)で実施。</p> <p>【課題等】</p> <p>① 教育活動推進員、教育活動サポーター及びボランティアの研修や情報交換を実施しながら、地域協力者の意識高揚に努める必要がある。</p> <p>② 竹富町子ども・子育て支援事業計画において、平成31年度までに7ヶ所(竹富、小浜、黒島、波照間、鳩間、古見、白浜)で実施するとしているが、30年度中の実施校は4団体に止まっており 各種団体、各地域への周知方法等の検討を図りたい。</p>		
A			
外部評価	<p>・事業費を有効活用し、ボランティア等の人材確保・資質向上に努めていただきたい。地域の方々との交流は子供たちにとって生涯学習の原点となり地域の活性化につながることを考えられる。子供たちの人格形成にも大きくつながる事業だと期待できる。</p>		
A			

## 事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	生涯学習委託事業(社会教育学級)	担当課	社会文化課
事業費	29年度実績額	30年度実績額	R1年度予算額
	884 千円	574 千円	1,050 千円
事業概要	町民の生涯にわたる学習の機会を充実するため、委託事業者が社会教育事業を開設し、運営に必要な経費の定額を支給する。		
(1)対象	町民(町内の社会教育関係団体)		
(2)目的	青年教室・婦人学級・家庭教育学級室・成人大学講座を各種団体へ委託し、生涯学習の機会を提供する。		
(3)事業内容	<p>【平成30年度実施学級及び団体名】= 4教室                      (青年学級)=3教室                      ・祖納公民館青年部(祖納公民館青年部学級)                      ・小浜青年会(小浜青年学級) ・細崎公民館青年部(細崎の海業学習)                      (成人大学学級)=1教室                      ・地縁団体法人竹富公民館(古謡教室)</p>		
(4)成果目標	<p>・それぞれの講座及び教室終了後、地域のリーダーとして生涯学習の実践者になっていく。                      ・地域において学習の成果をさらに広めていく。</p>		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価		
区分	評 価 の 説 明 【成果・課題等】		
内部評価	<p>【成果】                      生涯学習の場として、各教室がそれぞれ目標をもった計画を立て、十分な活動ができています。学習の場をとおり、各年齢層との繋がりができたことで、地域の歴史・文化、伝統、芸能の習得・継承に大きく貢献できています。</p>		
	B	<p>【課題等】                      地域及び各種団体等において事業実施へのためらいが見られるため、申請及び報告書等の資料整理指導や事業説明など、各種団体への働きかけを継続的に実施し事業活用を広めていきたい。</p>	
外部評価	<p>・本事業が各種団体、各地域を活性化されるものと期待し、今後も継続していただきたい。</p>		
B			

## 事務事業点検評価シート

竹富町教育委員会

事業名	社会教育団体育成補助事業	担当課	社会文化課
事業費	29年度実績額	30年度実績額	R1年度予算額
	2,417 千円	2,009 千円	2,370 千円
事業概要	各種団体活動の育成及び青少年の地域活動振興及び推進の育成補助。		
(1)対象	各種社会教育団体(公民館、青年会、PTA、子ども会、婦人会等)		
(2)目的	各種団体における学習機会の提供と自主的な活動を支援し、豊かな人間性と団体の資質向上を図ると共に地区の活性化を図る。		
(3)事業内容	各種団体活動の育成及び青少年の地域活動振興及び推進の育成補助		
(4)成果目標	各種団体への活動支援を目的とした育成補助を行い、団体の資質向上と指導者の育成を図り、各種団体の活性化を図る。		
【点検評価】	評価凡例 妥当性・効率性・有効性・今後の展開、それぞれ1点～4点で評価 A 14～16点 B 11～13点 C 8～10点 D 4～7点 ※ 合計点数により評価		
区分	評 価 の 説 明 【成果・課題等】		
内部評価	<b>【成果】</b> 公民館、青年会、PTA、子ども会、婦人会等への活動補助として交付することにより、リーダー研修、研究大会、団体の活動資金として活用され、各種団体の活動が活発になり、地域貢献や人材育成へ活かされている。		
	A	<b>【課題等】</b> 各種団体の取組みについて、社会教育委員又は、社会教育指導員の積極的な指導助言等を行い、活発な活動を支援するための環境づくりを継続的に努めていきたい。	
外部評価	・地域における人材育成と各団体の意識・資質の向上を図るうえで今後も継続させていただきたい。		
A			